

校長室だより



真岡東中 校長室だより

N o . 8 9

2019/03/12/Tue

修了式まであと10日

明治政府、日曜休日・土曜半休体制1876年

中国革命の父・孫文、59歳で没 1925年

アンネ・フランク、収容所に15歳で没1945年

小野田元少尉、ルバン島から帰国1974年

チーム東…生徒・家庭・教職員へ向けての校長通信

高め合い、磨き合い、感動し合い、「愛」いっぱいの真岡東中に！

真岡東中学校HPでもご覧いただくことができます

平成30年度「第38回 卒業式」が終わる！

「おめでとう」の言葉とともに「卒業証書」を授与！

命を大切に自分の花を咲かせ夢を切り拓こう！

～失うと二度と戻らない「命」と「時間」を大切に！ 応援してます～

3月8日(金)、前日の雨がすっかり上がり、絶好の日和となって卒業式を迎えられました。

真岡市教育委員会教育長の田上富男様をはじめ、多くの御来賓の方々と保護者の皆様の御臨席のもと、卒業式が盛大に挙行できました。ありがとうございました。

卒業生107名は一人ひとりが喜びと感謝、惜別の思いを胸に、思い出多い学舎を巣立って行きました。



卒業生入場

卒業証書授与 卒業式は正式には「卒業証書授与式」。式の一番のメインとなるものです。この日は、卒業生107名全員に卒業証書を手渡すことができ、一人ひとりに声を掛けられたことが私としても何よりうれしいことでした。

証書授与の時から、すでに感極まってステージ上で涙をこぼす卒業生も見られ、厳粛な中にも胸を熱くさせる場面が何度もありました。



祝辞 教育委員会の言葉を田上富男様からいただき、更に真岡市長(代理：市健康福祉部長の加藤敦美様)、真岡市会議長(代理：市議会議員の七海朱美様)や青木圭太PTA会長から祝辞をいただきました。



教育委員会の言葉



来賓祝辞



励ましの言葉、はなむけの言葉をたくさんいただき、卒業生も4月からの新しい生活に希望をもって臨むことができると感じました。ご来賓の皆様、本当にありがとうございました。

送辞 在校生代表の松本陽大朗さんが、自分が入学した際に優しく迎えてくださったこと、何事にも全力で取り組む大切さを学んだことなど感謝の気持ちを述べました。

学校行事を振り返り、「私たちも仲間を大切にできる心意気を引き継いでいきたい」、「少しでも先輩に追いつけるように努力を積み重ね、受け継いできた伝統を絶やさないよう精一杯頑張っていく」と卒業生と学校生活を共にした在校生としての決意が表れていました。感じたことや学んだこと、お世話になったことに対して、感謝の気持ちと思い出とはなむけの言葉を堂々と述べた送辞でした。



答辞 卒業生代表の中島知樹さんが「皆さんから温かいお言葉をいただき感謝と感激で胸がいっぱいです」と、感情を込めて3年間の数々の学校行事や教室での思い出と感謝の気持ちを述べました。レベルの高い合唱をどう創り上げてきたか、その努力と結果以上の大切なものについても触れていました。学校生活で多くの時間を過ごした部活動では、全ての部について思い出を語り、最後は自分の所属する野球部での充実した活動ぶりを感動的に語りました。



先生方への感謝の言葉も忘れていませんでした。そして、「お父さん、お母さん、いつもたくさんの愛情を注いで本当にありがとう」と、素直な気持ちを述べた場面では、卒業生のみならず保護者や在校生の目も潤んでいました。「明るい未来に向かって新たな一步を踏み出します。厚い壁にぶつかることもあるでしょうが、この東中で学んだことを思い出し、仲間との絆を支えに乗り越えていきます」と締めくくり、会場を感動の渦に巻き込む答辞でした。

合唱 式歌「旅立ちの日に」を全校生で合唱しました。卒業生と在校生が心を一つにした最後の合唱に、全校生の心意気が伝わってきました。

卒業生合唱「Jupiter」 閉式後、もう一つのクライマックス … 卒業生合唱

「Jupiter」を披露しました。まだ会場にすすり泣く声が聞こえる中で、卒業生たちは涙をこらえ一つひとつの言葉を丁寧にかみしめながら歌う姿に、3年間の様々な思い出がよみがえりました。



さらに、サプライズで卒業生が感謝の呼びかけがあり、各々が精一杯の声を出して、感謝の気持ちを述べていました。厳粛な中にも感動のある素晴らしい卒業式となりました。

感謝の式辞 私の式辞では、主に以下の3点について話をしました。

①君たちと3年間、学校生活を共にできて幸せでした。卒業生のこの3年間の成長ぶりと感動的な姿を振り返ると、君たちを称える言葉と感謝の気持ちでいっぱいです。②教え子が苦勞に苦勞を重ねてやっと夢を叶えたにもかかわらず、最愛の妻と娘を残して、昨年、生涯を閉じてしまった…彼は、必ず生還すると約束したことを果たせず、何とも無念だったことだろう。命があれば何かできるはずですから、失うと二度と戻らないのが命。その命と時間を大切にしてください。自分が主人公のストーリーを続けてほしい。③君たちには応援してくれる人がたくさんいます。両親をはじめ今日まで関わってくださった方々に感謝をしてください。親から授かったかけがえのない命を大切に、自分の花を咲かせ夢を切り拓いてほしい。



本校の最高学年として示した卒業生の「心意気」、そして「一緒懸命」の姿は、確かな伝統として後輩に永く引き継がれることと思います。中学校の集大成である「卒業式」にふさわしい堂々とした態度で式に臨んでいた在校生も立派でした。生徒と先生の信頼関係が築かれて

いることが感じられ、ここに「チーム東」の実力を見た思いでした。誠に、ありがとうございました。

※最後は言葉にならず、お聞き苦しくなってしまう、大変申し訳ありませんでした。

